

*Made For life*

Corporate Profile

キヤノンメディカルシステムズ株式会社

本社 〒324-8550 栃木県大田原市下石上1385番地

<https://jp.medical.canon>

© Canon Medical Systems Corporation 2023

キヤノンメディカルシステムズ株式会社は、品質マネジメントシステムの国際規格 ISO 9001 及び ISO 13485 の認証を取得しています。  
キヤノンメディカルシステムズ株式会社は、環境マネジメントシステムの国際規格 ISO 14001 の認証を取得しています。

*Made For life*

M000121 PR0001-④

キヤノンメディカルシステムズ株式会社

私たちが守りたいもの。  
それは、「世界中の人々の健やかな生活」です。

私たちは、医療課題の解決に向けて、  
世界の医療機関とともにソリューションを開発し、提供しています。  
最新のテクノロジーで新たな価値を生み出し、  
医療の発展を支え続けることが、当社の使命です。

この使命の実現に向けて、私たち一人ひとりは、  
経営スローガン Made for Life に込められた決意、  
「患者さんのために、医療従事者とともに歩み、  
尊い命を守る医療に貢献していく」を胸に、成長を続けます。

経営スローガン

# Made For life

患者さんのために、あなたのために、  
そして、ともに歩むために。

## 経営理念

キヤノンメディカルシステムズグループは、いのちの尊さを基本に、医療・健康・福祉の広い分野で人々の健やかな生活の実現のために、グローバルに事業を推進し、豊かな価値を創造します。

1. 健康と尊い命を守る医療に貢献します。
2. 高品質で信頼性のある「商品」と適切な「サービス」を提供します。
3. お客様と共に歩み・成長していく企業を目指します。

## Contents

経営スローガン／経営理念	02
トップメッセージ	04
キヤノンメディカルの歴史	06
事業領域と成長戦略	08
キヤノンメディカルが目指す未来	10
価値創造ストーリー	12
製品紹介	18
CSR の取り組み	20
技術の基盤	22
会社概要	24
グローバルネットワーク	26



# 一人ひとりがMade for Lifeを胸に刻み、 医療の発展に貢献していく

## 「Made for Life」のもと、 医療に貢献する企業であり続ける

キヤノンメディカルは、「Made for Life」（患者さんのために、あなたのために、そして、ともに歩むために。）という経営スローガンのもと、新たな価値を創造し、お客様に提供することで世界の医療に貢献してまいりました。

当社のルーツは日本で初めてX線管の開発に着手した1914年までさかのぼります。以来、約100年にわたりメディカルシステム事業を推進し、CTやMRI、超音波診断装置など、患者さんの負担軽減と高精細画像を両立させる技術開発を行ってきました。当社は今後も継続して「画像診断」「ヘルスケアIT」「IVD（体外診断）」の分野に注力し、医療機関や患者さんに寄り添った事業活動を推進してまいります。

当社は尊いのちを守る医療に貢献するため、高品質で信頼性のある製品とサービスを提供し、医療の課題解決を目指します。

## 医療課題に真摯に向き合い、 社会へ価値を提供する

世界の医療を取り巻く環境には、医療従事者不足、高齢化社会、医療費の増大、医療の地域格差など、いのちを守る現場が直面するさまざまな課題がありま

す。当社は、社会の変化に合わせた医療課題の解決や価値提供を行うことこそが、使命だと考えています。そのため、現代社会から求められる“サステナビリティ”の要素を融合させた製品・サービス、ソリューションの提供を目指し、活動を展開しています。

また生命・安全・法令遵守を最優先に経営を実践し、地球環境に配慮していくことも私たちの重要な役割であると考えます。お客様や従業員、株主、地域社会など、さまざまなステークホルダーの皆さまとコミュニケーションを図り、信頼される企業として邁進してまいります。

## 成長しつづけることで、 未来の医療を支える

今後、ますます高度化する医療を支えるために、我々も技術を高めていかなくてはなりません。iPS細胞に関する共同研究や、体外診断用医薬品の開発など、新たな領域の知見をとり入れ、自らが成長することで高度化する医療に対応してまいります。

私たちの礎は、これまで多くのお客さまとともに歩み築き上げてきたパートナーシップです。これからも「Made for Life」の経営スローガンのもと、世界中の人々の医療格差を解消し、医療にかかる方々とともに、未来の医療現場を支えていきたいと考えています。



キヤノンメディカルシステムズ株式会社  
代表取締役社長

瀧口 登志夫

# キヤノンメディカルの歴史と成長を支えた製品

100年以上続くキヤノンメディカルの歴史の中で、私たちは世界に先駆けてさまざまな製品を世に送り出し、画像診断装置のパイオニアとして時代の要請に応えてきました。医療を取り巻く環境は、厳しさを増すとともに高度医療へのニーズが高まっています。私たちはこれからも世界中の医療に携わる方々と連携し、イノベーションを図り、“病気の早期発見、確実な診断、負担の少ない検査”の実現に貢献できるよう、最適なソリューションを提供してまいります。

1914 》

## 社会動向

- 第一次世界大戦
- 第二次世界大戦

1970 》

- ベビーブーム
- 高度成長期

1990 》

- 安定経済成長
- バブル経済とその崩壊

2000 》

- グローバル経済へ
- 少子高齢化社会への対応

2020 》

- ITの発展とともにデジタル化
- AI・IoTの普及と拡大

## キヤノンメディカルの動向

1930	日本医療電気株式会社創立
1954	東芝医療電気株式会社に社名変更
1957	東芝放射線株式会社に社名変更
1967	東京芝浦電気株式会社 医用機器事業部発足

1972	東芝メディカル株式会社に社名変更
1979	東京芝浦電気株式会社 那須工場操業開始

1999	株式会社東芝 医用システム社発足
------	------------------

2003	東芝メディカルシステムズ株式会社営業開始
2011	バイタルイメージズ買収
2015	オレアメディカル買収

2018	キヤノンメディカルシステムズ株式会社始動
2018	アクトメッド株式会社買収
2018	フィジコン買収
2019	スコープ マグネティック レゾナンス テクノロジーズ買収

2022	ノルディスクレントゲンテクニック買収
2022	NXCイメージング買収

## 成長を支えた製品

1914	X線管の国産化に着手
1915	ギバX線管発表
1932	ギバ75型X線装置
1960	X線テレビ装置
1961	X線テレビ画像の遠隔地伝送
1962	回転横断撮影装置
1966	超音波市場に参入
1967	治療装置電子線付ライナック
1969	スキャンなしでシンチグラムを得られるガンマカメラ

1975	頭部専用のCT
1976	リニア式電子スキャン装置
1977	生化学自動分析機
1981	治療計画装置TOSPLAN
1983	MRI
1985	スリップリング連続回転CT
1985	心臓の血流を可視化するカラードプラ搭載超音波診断装置

1986	PACSのルーツ、デジタル保管システム
1989	ファンビームコリメータ搭載の3検出器SPECT装置
1992	天井走行式X線アンギオグラフィ組み合わせCTシステム開発
1993	CTとライナックの同室設置FOCALunit
1994	ライナックにダブルフォーカス式MLCを搭載
1996	CTガントリー移動式Angio CTシステム
1998	非造影MRAの新手法FBI法を確立
1999	MRIの静音化技術Pianissimo機構開発

2001	マルチスライスX線CT装置
2006	循環器用マルチアクセス型アームシステム
2007	320列エリニアディテクターCT
2008	X線平面検出器(FPD)式乳房X線撮影装置
2008	循環器用手術室ハイブリッドシステム
2009	コンパクトで高画質を実現超音波診断装置
2009	Cアーム型多目的X線テレビ装置
2010	Open Bore 71cmの1.5テスラMRI
2014	超音波診断装置低速の血流を非造影で抽出するイメージング技術SMI(Superb Micro-vascular Imaging)開発
2014	大口径TOF PET-CT装置
2015	大規模検査室向け臨床化学自動分析装置
2016	迅速検査ソリューション装置インフルエンザウイルスキット
2017	従来に比べ面内・体軸方向にそれぞれ約2倍の空間分解能を実現した高精細CT
2017	組織の超音波減衰量を計測する技術Attenuation Imaging(ATI)
2017	2ルーム式Angio CTシステム
2018	医療情報ソリューション
2018	高精細検出器(Hi-Def Detector)搭載X線アンギオグラフィ
2018	AIを設計段階で活用した画像再構成技術を搭載したCT
2019	AIを設計段階で活用した画像再構成技術を搭載した3テスラMRI
2019	デジタルPET検出器を搭載したPET-CT装置
2020	蛍光LAMP法を用いた新型コロナウイルス遺伝子検査システム(研究用)
2020	迅速検査ソリューションSARSコロナウイルス抗原キット
2020	ワイヤレスX線平面検出器(FPD)※
2022	生活習慣病の予防医療をサポートするコンパクトな超音波診断装置
2022	先進の自動化技術を搭載した80列マルチスライスCT

※製造販売業者 キヤノン株式会社

本冊子の中にあるAI技術の記述については、設計段階で用いたものであり、システム自体に自己学習機能は有していません

# 注力する事業領域と目指す未来

キヤノンメディカルは、社会ニーズを起点に当社の強みを活かしながら、幅広い医療課題の解決に取り組んでいます。主力分野である「画像診断領域」に加え、「ヘルスケアIT領域」「バイオサイエンス領域」という3つの事業に注力することで、「プレシジョン・メディシン」の実現を目指しています。



少子高齢化を背景に疾病の予防および早期診断、早期治療を積極的に促進し、健康寿命の延伸および患者さんのQOL\*の向上が求められています。



健康寿命の延伸



早期診断・早期治療



患者QOLの向上

現在

新しい技術基盤の確立  
バイオテクノロジーを  
用いた医療  
**バイオサイエンス領域**



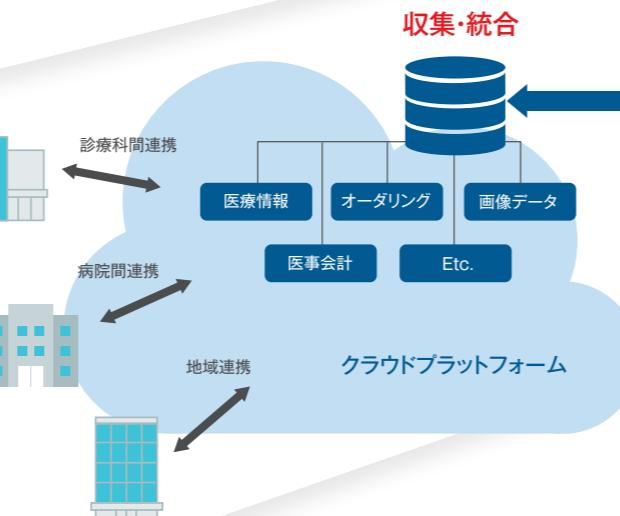
疾病の早期発見・早期診断を  
支援するIVD(体外診断)をはじめ、  
再生医療や遺伝子解析といった  
バイオサイエンス領域にも  
注力しています。

医療IT事業への拡大  
AI、IoTを活用した  
医療データの統合・解析  
**ヘルスケアIT領域**

医療現場に蓄積された膨大な  
診断画像や患者さんの情報を  
統合・解析・加工して届ける  
ことで、質の高い診断・治療を  
効率的にサポートしています。

既存事業の規模・領域拡大  
**画像診断領域**

AIなどの先端技術を活用し、  
高精細画像やワークフローの  
改善を実現するなど技術革新  
は日々、進化しています。



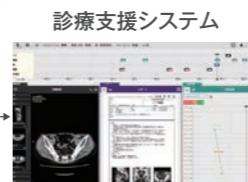
\*QOL: Quality of Life



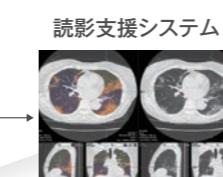
試薬事業の本格参入

再生医療の技術創成

未来



診療支援システム



読影支援システム

精密な診断と  
治療方針選定の支援



次世代の画像診断装置の追求



フォトンカウンティング検出器搭載型X線CT



画像診断装置のさらなる高度化



プレシジョン・  
メディシン

目指す未来



医療の進化に伴い、近年バイオサイエンス領域は、めざましい発展を遂げています。今まで考えられなかったような新たな医療の世界が広がりをみせています。画像診断領域においても、より高精細で機能や動態まで観察できるような、次世代のテクノロジーが開発され、新たな画像診断装置が誕生しています。

キヤノンメディカルは、画像診断で得られた高精細な画像データや、バイオサイエンス領域で得られた患者データを融合し、ヘルスケアITでさまざまな医療データを収集・統合・解析して提供することで、誰もが自分の病気の特性や価値観にあったより良い治療を受けられる医療の発展を目指しています。

# プレシジョン・メディシンを実現し 誰もが 自分らしい人生を 生きる世界を

医療の高度化により病気の治療法・治療薬の選択の幅は広がり、  
病気との向き合い方など患者さんやその家族の価値観も多様化しています。

医療従事者が患者さんそれぞれに最適な治療法を提案し、  
患者さんも自分の病気の特性や価値観に合った、  
より良い治療を納得して選択できたなら—そんな未来の医療が、  
プレシジョン・メディシンです。

私たちキヤノンメディカルは、プレシジョン・メディシンの実現を通じて  
患者さんの生体要因、環境要因、生活習慣などの複雑かつ総合的な特徴を捉え、  
個別化された精緻な診療の選択を、患者さん本人と医療従事者が  
共同で行えるような未来を拓げ、支えたいと考えています。

私たちは未来の医療に貢献するために、研究機関との連携により  
バイオテクノロジーとヘルスケアITを強化しています。

100年の歴史で培ってきた高度な画像診断技術と、これらを組み合わせ、  
世界中の人々の健康な生活を実現することは、私たちの使命。  
その使命を完遂し、誰もが病気に支配されることなく、  
自分が望む高いQOLを実現し、  
人生を謳歌することができる世界へ—  
それはまさに、私たちの経営スローガンである  
「Made for Life」が目指す世界です。

## 世界の医療機関と共同研究し、未来の医療に向けて開発する技術

### 診療意思決定支援



### AIを活用し 診療の意思決定を支援

患者さんとその疾患を観察し、状態を理解した上で診療の方針を決めて実行するという診療の全てのステップにおいて、開発段階でAIを用いた技術によりデータを効率的に活用し、医療従事者の意思決定を支援する研究開発に取り組んでいます。

#### 研究開発の取組み

観察 ..... キヤノンメディカルの強みである高精細な画像診断技術で病巣を描出。

理解・予測 ..... 患者さんのさまざまな情報を計測し、特徴を抽出。過去との比較による変化の検知、異常の検知などを支援。

診断・治療計画 ..... 情報に基づき、どういう治療法を選択するか、次の診療をどう進めるかの意思決定を支援。

治療 ..... ワークフロー最適化やインタラクション支援などで治療の実施を支援。

### リキッドバイオプシー



### 少量の血液で がんを精確に診断

がんの検査では、生検（バイオプシー）で良性か悪性かを判定します。実際には身体的負担のあるバイオプシーを受けた患者さんの多くが治療の必要のない偽陽性であるという課題があります。キヤノンメディカルは患者さんの身体的負担が軽微な「リキッドバイオプシー」の技術開発に取り組んでいます。患者さんの体液に流れ出したがんに関連するたんぱく質や細胞外小胞を高感度に捉えて解析することで、がんの特徴をとらえます。キヤノングループのネットワークを活用し、世界を牽引する医療機関やアカデミアと連携し、技術研究に取り組んでいます。

### 画像診断



### キヤノンメディカルの コア技術が活きる

プレシジョン・メディシンの実現を根幹から支えるのが、キヤノンメディカルの画像診断技術です。リキッドバイオプシーで得られる生物学的情報と、画像診断から得られる形態学的情報を統合解析することで、がんの診断精度の向上を目指します。診療支援では、CT、MRI、超音波、X線など複数のモダリティによって得た情報と、DNAなどの画像以外の検査情報、カルテ記載などの文字情報を、AIを活用して組み合わせることで、より正確な診断・治療の支援を目指しています。



## 医療被ばくを半減したい。

より少ない被ばくで高精細な画像の提供へ

「どうしたら、より被ばく量の少ない検査を、より多くの患者さんに届けられるだろう」。CT開発に取り組むキヤノンメディカルは、この課題について長年考え続けてきました。

CTによる医療被ばくは疾患を発見するために不可欠なもの。より高画質な画像を得るために、より多くの照射線量が必要になるという「低被ばく」と「高画質」はトレードオフの関係にあります。

患者さんの負担を減らすためにできることは、より少ない照射線量で高画質の画像ができる技術を開発し、提供すること。患者さんの負担軽減と精度の高い診断に寄与するための私たちの挑戦は、これからも続きます。

### キヤノンメディカルの挑戦 01

## 「CT 被ばく半減プロジェクト」で、患者さんの医療被ばく低減へ

CTの開発以来、私たちは被ばく低減技術の開発に取り組み続けてきました。2011年の福島第一原発事故発生後、患者さんの医療被ばくへの関心は高まりました。「国内で大きなシェアを持つ当社が被ばく低減技術を広めれば、患者さんの役に立てるはず」。このように決断した私たちは「CT 被ばく半減プロジェクト」を掲げ、当時最新の被ばく低減技術（Adaptive Iterative Dose Reduction 3D : AIDR 3D）を全機種に標準搭載。既存のCT装置についても無償でソフトのアップグレードを行いました。その結果、日本にあるCTの半数程度がAIDR 3Dを搭載したCT装置を使用するようになり、多くの医療施設で従来よりも少ない放射線量での検査を提供できるようになりました。



従来よりも少ない放射線量での検査を実現した「AIDR 3D」の画像比較。(左)従来画像 (右)「AIDR 3D」

### キヤノンメディカルの挑戦 02

## 患者さんのために これからも続く、被ばく低減技術開発への取り組み

CT開発に取り組む上で、被ばく低減と画質向上の両立が重要課題の一つ。当社はAIDR 3Dの開発後も、更なる画像再構成技術の開発を続けています。より低ノイズかつ空間分解能を高めるFIRSTや、近年はディープラーニングの技術を用いて設計したAiCEやPIQEをリリースし、臨床現場への展開を拡げています。私たちはこれからも、患者さんがより良い検査を受けられるよう、必要とされる技術を開発していきます。

### 画像再構成技術の開発の歴史

2012年	2016年	2018年	2021年
<b>AIDR 3D</b> Adaptive Iterative Dose Reduction 3D 被ばく量を従来と比べ平均3割程度低減。強力なノイズ低減効果で画質向上。	<b>FIRST</b> Forward projected model based Iterative Reconstruction Solution 空間分解能を引き出し、細部までクリアな画像に。	<b>AiCE</b> Advanced Intelligent Clear-IQ Engine ディープラーニングを活用し、高画質を高速で実現。	<b>PIQE</b> Precise IQ Engine 超解像の鮮明な画像を、より低被ばく・短時間で提供。

Interview

### 世界中のすべての患者さんの被ばくを低減したい。 メーカーと現場がタッグを組み、より良い技術を世界へ発信

キヤノンメディカルシステムズとは2011年から共同研究を行い、AIDR 3Dをはじめとする画像再構成技術の開発に関わってきました。2015年からは広島県三次市にて、低線量のCTで肺がん検診をすることで早期発見・治療を目指すプロジェクトを実施しています。共に開発してきた技術は実際の臨床現場で役に立ち、普及機にも搭載できる優れた技術ですので、世界中の患者さんに貢献できればと期待しています。

キヤノンメディカルシステムズは医療に携わる会社として、患者さんに貢献するというミッションに真摯に取り組んでいる会社だと感じています。これからも1人ひとりの患者さんのためを想って、産学連携で技術の発展に取り組んでいきます。



広島大学大学院  
医系科学研究科  
栗井 和夫 教授



## すべての人に最適なMRI検査を届けたい。

患者さんに寄り添い、人にやさしいMRIを追求

キヤノンメディカルは、高い撮像技術を追求すると同時に、AIなどの先端技術を活用しながら、「人にやさしいMRI」を追求しています。最初の「人」は、患者さん。閉所恐怖症や体の大きな方、造影剤が使用できない方など、MRI検査が受けられない患者さんがいます。また、そうした特別な事情がなくとも、MRIの検査時間の長さや検査音の大きさなどに不安を感じる方もいます。私たちは患者さんに寄り添い、患者さんが安心して検査を受けられるようなMRIの開発に取り組んでいます。そして、医療従事者の皆さんも、私たちにとって大切な「人」。私たちは、MRIの操作ができるだけシンプルにしながら、経験値に左右されない誰が使っても高い精度の検査結果が得られる使いやすいMRIを目指しています。

### キヤノンメディカルの挑戦 03

## 静音、広い検査空間、造影剤を使わないMRアンギオグラフィーで“患者さんにやさしい”が進化

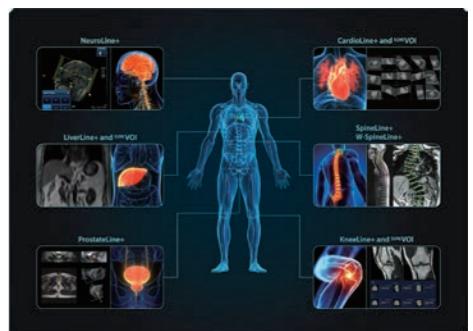
キヤノンメディカルのMRIの優位性の一つが、静音です。MRI検査中に発生する撮像音を低減するための技術開発にいち早く取り組み、独自の静音化技術によって、撮像音を最大約99%カットすることに成功しています。患者開口径は71cmまで拡げて検査空間を広くし、体の大きな方や閉所恐怖症の方でも検査が受けやすいように配慮しています。また、従来の体幹部や下肢のMRアンギオグラフィーでは造影剤を用いて検査を行いますが、ごく稀に造影剤で副反応を起こす可能性があります。当社は造影剤を使用せずに細い血管まで抽出可能な非造影MRアンギオグラフィーの研究開発を、医療機関と取り組み、患者さんにやさしい検査を実現しています。



### キヤノンメディカルの挑戦 04

## 画像再構成技術で医師や技師のワークフローを改善

MRI検査の大きな課題は、撮像時間の長さ。キヤノンメディカルは、ディープラーニングを設計段階で活用し、短い撮像時間でも従来の撮像時間と同等の高精細な画像が得られる画像再構成技術を開発。例えば、頭部MRI検査の場合、5分以下まで撮像時間を短縮しています。また、MRI検査ではどの断面を撮像するかの判断が非常に重要で、設定には時間を要しますが、操作者の撮像断面の設定をサポートすることで常に一定の精度の撮像が可能となり、医師や技師のワークフローを改善。検査時間が短縮されることにより患者さんの負担軽減にも貢献します。また、グローバルでの共同研究の推進や著名な先生によるメディカルアドバイザリーボードを通じて、医療のトレンドとニーズを早期に捉え、先端のソリューションを提供します。



断面設定アシスト機能

頭部や脊椎、心臓をはじめとした様々な領域において、解剖学的構造を検出し、断面設定をスピーディーにアシストします。この技術により断面設定が簡便化し、検査の高速化を実現します。

Interview

### グローバルでの共同研究 すべての人に安定した高品質のMRI検査を提供したい。

神経疾患の世界的な増加や癌など、さまざまな要因によりMRI検査は増加傾向にあります。キヤノンメディカルはフランスのボルドー大学との共同研究において、3Dの撮影を含めた頭部検査を5分で終えることができるWelcome Packを開発しています。共同研究を進めているボルドー大学のVincent Dousset教授は次のようにコメントしています。

“Reducing the scan time of the protocol while maintaining its diagnostic value may improve patient comfort and can significantly increase the throughput.”

画質を維持したまま撮像時間を短縮することで、患者さんの検査負担を軽減し、医療現場の検査効率を大幅に高める可能性があります。



Director of IBIO  
University of Bordeaux  
University Hospital of Bordeaux  
**Vincent Dousset, M.D., Ph.D.**



一人でも多くの  
患者さんを助けたい。

AIを活用した診療支援で、医療業務を効率化

IT技術で画像診断に付加価値を創造するヘルスケアIT事業は、プレシジョン・メディシンの実現に向けて、AI、IoTを活用し臨床における意思決定を支援するアプリケーションを研究開発しています。医療現場は、限られた時間の中での的確な治療方針を決断することが重要である一方で、患者さんに関連する医療情報は年々増加し、それらの情報を短時間で収集、観察し、常に同じ精度で的確な判断を下すためには、高いスキルと多くの労力が求められます。キヤノンメディカルのヘルスケアITソリューションは、画像診断装置から得られた画像を高い精度で解析し、さまざまな臨床情報を統合して、総合的な診断・治療方針の決定を支援。医療現場のワークフローの効率化を図り、医療従事者の負担軽減に貢献します。そして、早期に適切な処置を受けることによる、患者さんのQOL向上に寄与することを目指しています。

#### キヤノンメディカルの挑戦 05

### 意思決定をサポートしワークフローを改善

脳卒中の診断・治療においては、重度な後遺症を残さないために、発症から治療開始までの時間をできるかぎり短縮する必要があります。キヤノンメディカルは、救急領域における治療方針検討の精度向上、時間短縮をサポートするため、脳内の出血領域や虚血領域等を把握するための意思決定支援ソリューションを提供。CTで撮影した画像を自動的に解析し、分析結果をリアルタイムに配信します。CT撮影から数分という短時間で画像解析が終了し、早期に適切な治療方針を策定することができます。専門医が不在の場合でも意思決定を支援し、医療制度が整っていない地域などの遠隔診断にも貢献しています。



#### キヤノンメディカルの挑戦 06

### さまざまな医療情報を統合的に管理・共有

医療機器の多様化やデータ種類の増加に伴い、膨大な患者データが生成されるようになりました。しかし、それらのデータは電子カルテシステムだけでなくさまざまなシステムに分散しており、迅速な把握と活用が課題となっています。キヤノンメディカルは、適切な臨床情報を適切なタイミングで参照し意思決定を支援するための医療情報統合システムを開発。患者さんの既往歴、検査情報、投薬情報、治療情報の時間軸を揃えて統合表示し、診療科別・診療シーン別に最適な情報をスピーディに共有することで、医療の質向上と業務の効率化に貢献します。



Interview

#### 治療までの時間短縮と適切な脳の組織評価を両立 遠隔地医療の支援ツールに

キヤノンメディカルの医療情報ソリューションは、CTを撮影するだけで、その後は全て自動化されるので、撮影担当技師の負担は明らかに減ると思います。医師にとっては解析画像が表示されるまでの時間が把握でき、待ち時間のストレスが軽減。一刻を争う脳卒中診療の現場で、治療開始までのワークフローの改善に効果があると期待しています。また、遠隔地などの施設で常勤の専門医がない場合に、画像を判断する支援ツールになることが最大のメリットです。専門医にとっては、もう一つの“目”となってサポートしてくれるでしょう。



杏林大学医学部付属病院  
脳卒中センター

河野 浩之先生

# 医療に貢献する製品・ソリューション

すべては尊いのちを守る医療に貢献するために。

キヤノンメディカルでは常に技術刷新を行い、革新的な技術や製品をグローバルに展開しています。

## 画像診断領域

高度な診療に欠かせない画像診断装置。短時間での撮影や被ばくの低減による患者さんの負担低減、ワークフローの改善など、患者さんに寄り添い、より効率的で高精細な画像診断を目指し、技術革新を続けています。

CT システム



MRI システム



デジタル X 線 TV システム



超音波診断システム



核医学診断システム



X 線循環器診断システム



一般 X 線撮影システム

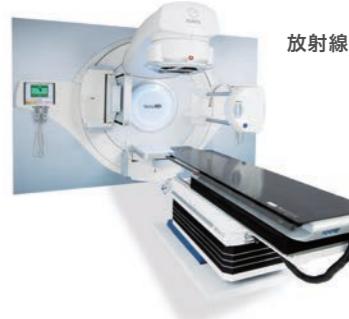


乳房 X 線撮影システム

デジタルラジオグラフィ<sup>※1</sup>

## 放射線治療領域

放射線治療において高いレベルの正確さと精度、効率性の向上を目指した放射線治療システム。全身のさまざまながんの放射線治療に対応しています。

放射線治療システム<sup>※2</sup>

## IVD(体外診断)領域

高度な医療に対応するため、疾病の早期発見・早期診断を支援する体外診断をはじめ、再生医療や遺伝子解析といったバイオサイエンス領域にも注力しています。

検体検査システム



## ヘルスケアIT領域

医療現場に蓄積された膨大な診断画像や患者さんの情報を、ヘルスケア IT を使って統合・解析・加工して届けることで、総合的な診断・治療方針の決定をサポートしています。

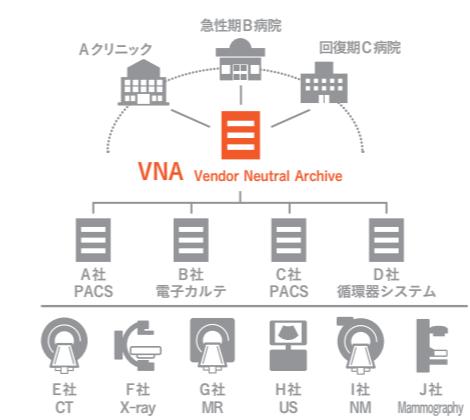
画像診断部門情報システム RIS



画像処理ワークステーション



医療情報統合管理システム



医用画像情報システム PACS / REPORT



医療情報統合ビューア



※1 製造販売業者 キヤノン株式会社  
※2 製造販売業者 エレクタ株式会社

# 持続可能な社会の実現に向けた 製品・サービス、ソリューションの提供

キヤノンメディカルは、事業活動を通じて企業と社会の持続的な相乗発展を目指すため「CSR方針」のもと、5つの重要課題と関連するSDGsの達成に向けた取り組みを行っています。

## 持続可能な社会の実現に向けた当社の考え方

### キヤノンメディカルの目指す姿

現代社会における要請や期待といえる、「サステナビリティ要素」を融合させた、製品・サービス、ソリューションの提供を目指しています。事業活動を通じた、社会の変化に即した課題解決・価値の提供こそが、企業と社会の持続的な相乗発展に結びつくと考えています。キヤノンメディカルシステムズグループは、こうした時代が求める、新しい価値を創造するCSR活動を展開していきます。

### CSR経営の推進

当社は、経営スローガンである「Made for Life」の下、全世界の医療の質の向上と発展を支え続けています。

従業員一人ひとりが「キヤノンメディカルシステムズグループ行動基準」を実践することにより、世界各地でCSR経営を推進しています。

## キヤノンメディカルの重要課題とSDGs

### 重要課題 1

## 新たな価値創造・医療課題の解決



### 医療コンテナ(CT / 新型コロナウイルスRNA検査)

災害時も平時と同等の医療を目指して、株式会社Sanseiと医療コンテナを共同開発し災害医療に貢献しています。当社のCTや、新型コロナウイルスRNA検査システムを医療コンテナに搭載。被災地、過疎地、離島など国内外あらゆる場所に移動し、病院と変わらない検査を支援しています。2016年の熊本地震の際にはCTコンテナが使用され多くの検査を支援。新型コロナウイルスRNA検査医療用コンテナはスポーツや音楽のイベント前の検査などで利用されています。

### 重要課題 2

## 社会との共生・地域への貢献



### 地域の子供たちへの工場見学会・出前授業(日本)

本社では、キヤノン電子管デバイスと協働し、本社近隣にある小学生を招いての工場見学会や小学校へ出向いて出前授業を開催しています。工場見学会ではリサイクルセンターや製造現場を見学、出前授業では実験などで実際に手に触れてもらうなどの体験を通してキヤノンメディカルの環境への取り組みを紹介。

子供たちとのコミュニケーションを通じ、地域社会との共生を目指しています。

### 重要課題 3

## 多様な人材の活躍と成長



### 福利厚生プログラムHealth360(アメリカ)

Health360はキヤノンメディカルシステムズUSAが取り組む福利厚生プログラムです。これには、減量プログラム、メンタルヘルスサービスの強化、ヘルスコーチング、禁煙、身体活動センターとコンテスト、ボランティア休暇などが含まれます。

このプログラムの目標は、社員を身体的、精神的、社会的、経済的な側面からトータルにサポートする福利厚生やプログラムにつなげることです。すべての社員が健康と幸福を持って活躍できるようサポートを進化させています。



### 重要課題 4

## 強固で健全な組織づくり



### リーダーシップ教育プログラム(オーストラリア)

キヤノンメディカルシステムズANZでは、社員の教育のためにさまざまなセミナーや研修を実施しています。その中でも、リーダーシップ教育プログラムは、リーダーとして必要なスキルを身につけ、社内でのキャリアチャンスを広げるための教育プログラムです。社員がお客様や患者さんのためにバリューを提供し行動するため、そして個人やチームの成長を促進するための取り組みを行っています。



### 重要課題 5

## 地球環境の保護・保全



### リファービッシュメント

地球環境に配慮した「環境配慮型の医療システム」の提供として、当社では開発・製造・販売・サービス・リサイクル・廃棄など、全ての事業プロセスで環境負荷低減に努めています。例えば、中古製品を回収して、リファービッシュメントした後に製品として再販売したり、部品を製品修理に再利用するなど、積極的に資源の有効活用に取り組んでいます。中古医用画像機器のリファービッシュメントに関する国際規格IEC63077に適合した整備を行い品質が確保された製品を提供しています。



### 生物多様性推進プロジェクト

那須野が原の恵まれた自然環境のもと、「いきものと共に存した企業づくり」をコンセプトに掲げ、社員や地域の方々と連携した生物多様性の保全活動を行っています。2012年に生物多様性推進プロジェクトを立ち上げ、NPO法人と連携を取りながら、那須事業所および周辺の生物調査を行っています。毎年行っているイベント「いきもの観察会」では自然とふれあい、生物の生息状況の検証や、生物多様性保全の重要性について学んでいます。人と自然の共生、持続可能な社会の実現に向けて、私たち一人ひとりが地球環境のことを考えて行動しています。



### CO<sub>2</sub>削減のために

脱炭素に向けたCO<sub>2</sub>排出量削減は、キヤノンメディカルシステムズグループとして2030年までに46.2%削減を目標<sup>※1</sup>と定め、具体的な施策展開を行っています。また、2050年に向けたカーボンニュートラルについての検討も開始しています。生産拠点、営業所、研究施設では、エネルギー使用量の削減に取り組んでおり、LED照明や人感センサー照明の採用、エコカーへの更新などの省エネ施策を行っています。J-クレジット<sup>※2</sup>や再生可能エネルギーの使用、輸送による二酸化炭素排出量の削減にも取り組んでいます。

※1:2019年比。キヤノン本社にて目標を検討中のため基準年及び目標値は、変更する可能性があります。  
※2:省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの利用によるCO<sub>2</sub>等の排出削減量や適切な森林管理によるCO<sub>2</sub>等の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度です。

# 確かな品質を支えるバリューチェーン

製品の開発から製造、販売、据付、アフターサポートのすべての活動において「Made for Life」のもと、  
お客様に最大限の価値提供することを目指しています。



※保守については保守契約を結んだお客様に適用されるサービスです。

## 会社概要



商 号 キヤノンメディカルシステムズ株式会社  
(CANON MEDICAL SYSTEMS CORPORATION)  
創 業 1930年(昭和5年10月)  
設 立 1948年(昭和23年10月)  
資 本 金 207億円  
本 社 栃木県大田原市下石上1385番地 TEL.0287-26-6200

代 表 者 代表取締役社長 滝口 登志夫  
業務内容 医療用機器(X線診断システム、CTシステム、MRIシステム、超音波診断システム、放射線治療システム、核医学診断システム、検体検査システム、ヘルスケアITソリューションなど)の開発、製造、販売、技術サービス

キヤノンにおける  
キヤノンメディカルの位置づけ

キヤノンは、「プリンティング」「イメージング」「メディカル」「インダストリアル」の4つの産業別にグループを編成しています。各分野の垣根をなくすことで技術や情報の共有化を図り、事業を超えた高いシナジーによる製品競争力の強化や新たな事業領域の開拓を目指します。その中でもメディカル事業は、人生100年時代を迎え、ますますニーズが高まっている分野。当社は、キヤノンのメディカル事業の中核を担っています。



## 国内ネットワーク

本社(那須事業所)  
川崎事業所  
下丸子事業所  
赤穂事業所  
田町サポートセンター  
東京CLスクエア  
北海道支社  
札幌支店  
札幌サービスセンター  
函館営業所  
函館サービスセンター  
旭川支店  
旭川サービスセンター  
北見サービスセンター  
釧路営業所  
釧路サービスセンター  
帯広営業所  
帯広サービスセンター  
東北支社  
宮城支店  
宮城サービスセンター  
福島支店  
福島サービスセンター  
山形支店  
山形サービスセンター  
北東北統括支店  
岩手支店

秋田支店  
青森支店  
北東北統括サービスセンター  
岩手サービスセンター  
秋田サービスセンター  
青森サービスセンター  
八戸サービスセンター  
関東支社  
埼玉支店  
埼玉サービスセンター  
栃木支店  
栃木サービスセンター  
新潟支店  
新潟サービスセンター  
茨城支店  
茨城サービスセンター  
群馬支店  
群馬サービスセンター  
首都圏支社  
東京第一営業部  
東京第二営業部  
東京サービスセンター  
西東京支店  
西東京サービスセンター

和歌山支店  
和歌山サービスセンター  
奈良支店  
奈良サービスセンター  
兵庫支店  
兵庫サービスセンター

中四国支社  
広島支店  
広島サービスセンター  
福山営業所  
福山サービスセンター  
岡山支店  
岡山サービスセンター  
山口支店  
山口サービスセンター  
山陰支店  
山江サービスセンター  
鳥取出張所  
鳥取サービスセンター

香川支店  
香川サービスセンター  
愛媛支店  
愛媛サービスセンター

高知支店  
高知サービスセンター  
徳島支店  
徳島サービスセンター

九州支社  
福岡支店  
福岡サービスセンター  
北九州支店  
北九州サービスセンター  
熊本支店  
熊本サービスセンター  
長崎支店  
長崎サービスセンター

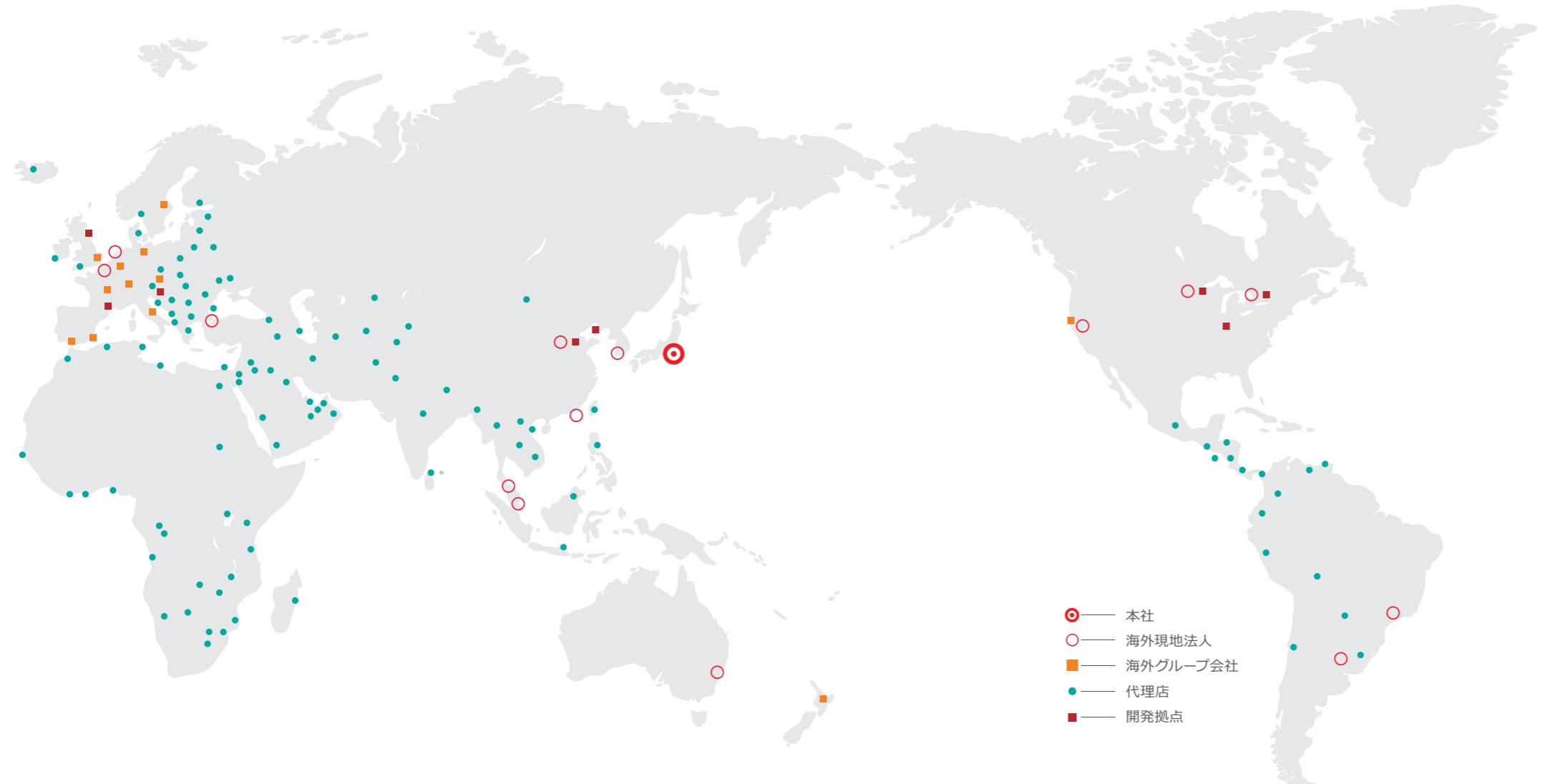
鹿児島支店  
鹿児島サービスセンター  
宮崎支店  
宮崎サービスセンター  
大分支店  
大分サービスセンター

佐賀支店  
佐賀サービスセンター  
中九州サービスセンター



## グローバルネットワーク

世界 190 以上の国や地域に製品・サービスを提供し、お客様をサポートしています。



日本／大田原市（栃木県）  
本社  
キヤノンメディカルシステムズ



アメリカ／カリフォルニア州  
社員の集合写真  
キヤノンメディカルシステムズ USA



シンガポール  
シンガポール放射線学会 出展  
キヤノンメディカルシステムズ アジア



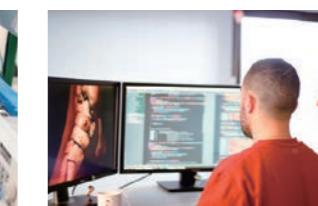
オーストラリア／ニューサウスウェールズ州  
CT 新製品グローバル 1 号機 捜付風景  
キヤノンメディカルシステムズ ANZ



韓国／ソウル  
韓国放射線学会 展示ブース  
キヤノンメディカルシステムズ 韓国



アメリカ／イリノイ州  
先進的ハードウエアなどの研究開発  
キヤノンメディカルリサーチ USA



イギリス／エдинバラ  
臨床アプリケーションソフトウエアなどの研究開発  
キヤノンメディカルリサーチヨーロッパ

## キヤノンメディカルシステムズ株式会社

## ■ 国内グループ会社

沖縄キヤノンメディカルシステムズ株式会社	販
株式会社メリット	販
アクトメッド株式会社	販 研
キヤノンメドテックサプライ株式会社	販
キヤノンメディカルダイアグностิกス株式会社	販 研 生

## ■ 海外グループ会社

キヤノンメディカルシステムズ USA	販
キヤノンメディカルリサーチ USA	販 研
キヤノンメディカルシステムズヨーロッパ	販
キヤノンメディカルリサーチヨーロッパ	販 研
キヤノンメディカルシステムズ ブラジル	販 生
キヤノンメディカルシステムズ アジア	販
キヤノンメディカルシステムズ カナダ	販
キヤノンメディカルシステムズ ANZ	販
キヤノンメディカルシステムズ（中国）有限公司	販 研
キヤノンメディカルシステムズ（香港）有限公司	販
キヤノンメディカルシステムズ研究開発（大連）有限公司	研
キヤノン 医用機器（大連）有限公司	生
キヤノンメディカルインフォマティックスインク	販 研
キヤノンメディカルシステムズトルコ	販
キヤノンメディカルシステムズ 韓国	販
キヤノンメディカルシステムズ マレーシア	販
キヤノンメディカルシステムズ アルゼンチン	販
オレア メディカル	研
スコープ マグネティック レゾナンス テクノロジーズ	販 研
フィジコン	販 研
ノルディスクレントゲンテクニック	研 生
キヤノンメディカルダイアグностิกス USA	販 研 生

## ※機能

販	販売・サービス
研	研究開発
生	生産